

学部・講義：幼児や保育者の姿、保育の現場を思い描きながら

幼児教育の基礎的知識を学ぶ

幼児教育・青井倫子

1. 授業の概要

本科目は、幼年教育の専修科目（1回生対象）であり、(1)幼稚園・保育所の制度・内容・歴史、(2)子ども観・発達観・保育観、(3)環境を通しての教育、(4)幼児期にふさわしい生活、(5)幼児理解のあり方、などに関する基礎的知識の習得をめざすものである。

2. 受講学生 10名

1回生:10名(教育学1名、幼年教育7名、音楽教育1名、技術教育1名)

3. 授業の工夫

(1)ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。

(2)学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

(3)“集団性からみた遊びの分類”について自己学習課題とした翌週、その内容及び関連内容を扱った放送大学のビデオ授業番組（授業担当者が番組担当講師）を視聴した。1回生には高度な内容もあったため、質問をまとめて来させて解説を行った。これは、本科目では初めての試みであった。

(4)4年間を見通した際、幼児教育の歴史を学ぶ機会が少ないので『児童中心主義の保育』（森上史朗著）の各章の概要をレポートで提出させた。

(5)幼児教育に関する基礎的な用語や知識を習得させるため、毎授業時に5～7個の用語を指示し、次の授業時まで文献や辞書で調べた内容をレポートにまとめて提出させた。

4. 授業評価の方法

最終授業終了後にアンケート（5段階評定と自由記述）を配付し、記入してもらった。学年・専修・氏名の記入は、個々の学生の自由意思に任せた。

5. 授業評価の結果

- 5：たいへんそう思う（非常によい）
- 4：ややそう思う（よい）
- 3：どちらともいえない（ふつう）
- 2：あまりそう思わない（あまりよくない）
- 1：まったくそう思わない（よくない）

(1)学生の自己評価

出席状況	5.0
受講前に問題意識があったか	3.9
意欲的に取り組んだか	4.3
(2)授業に対する評価	
テーマ・目的は明確だったか	4.7
話し方は明確・聞き取りやすかったか	4.9
重要なことを強調したか	4.9
プリントに沿った授業は理解を助けたか	4.9
ビデオ視聴は授業の理解を助けたか	4.6
授業への熱意・工夫が感じられたか	4.6
内容・レベルは適切だったか	4.0
宿題は有益なものだったか	4.9
考えが培われたり得るものがあったか	4.6
学問をする雰囲気は保たれていたか	3.8
教職に就くうえで有益だったか	4.9

(3)自由記述（抜粋）

【概論（導入）的位置づけの本授業に関して】
・私の中での幼児に対する考え方が変わり、とても大きな影響を受けた。私は当初、幼児は弱く何もできないために保育者が援助をするのだと考えていたが、実際の幼児は弱いけど、何もできないのではなく、たくさんの可

能性を秘めたすばらしい力の持ち主であるので、保育者は養護しながら自主性を育て、まさに人生の基礎となるような援助を行う重要な役割を担っているのだと考えるようになった。

・知っていた知識をさらに肉付け、知らなかったことをもっと知りたいと思える充実して刺激ある授業でした。幼児教育に関わるための入り口の段階でしかないことを痛感しましたが、自分の関心のあることなので集中して授業に参加することができ、これからも学ぶ意欲をもって自分から幅広く知っていこうと思いました。

・今まであいまいだった事柄が、授業を受けることで少しずつ明らかになっていき、興味をもって聞くことができました。

・この授業の真剣で少し張りつめた空気のおかげで、幼児教育というものに真剣に向きあって行こうと思えるようになりました。

・幼児についてここまで深く学んだのは初めてだったので、充実感のある授業でした。この授業のように、1つのことを深く考えられる授業をまた受けたいです。

【基礎を学ぶということについて】

・授業で学んだことが、そこだけの知識にとどまらず、他の色々なことと関連していたので、つながりを感じたし、学んだことをそのままにせず、他のことと関連づけながら学ぶことで理解もふかまるのだなあと思いました。

・一つのことに對して様々な視点からみることを教えてもらって、初めて気づくことが多かったです。

【授業の方法に関して】

・少人数の授業で、一人ひとりに質問をして回答を求める方法であったので、授業内容をその場で理解し、考え、自分の言葉で説明することが多く、一回一回の授業がある程度の緊張感に包まれていて集中できた。

・受講前は、自分の意見を考えたり発表したりする時も、誰かのまねをしたりしてあまり深く考えていなかったように思えます。今は、自分の意見や考えを持つことは本当に大切なことであると気づきました。これから、授業を受ける時も、自分の考えをしっかりとって深く考えられるようになりたいと思いました。その考えを表現できるだけの日本語力も今さらながらつけたいと思いました。

・先生が答えを出す前に、考えさせることで、

自分で考える習慣がついたと思います。

・この授業は、ただ暗記すればいいというだけでないので苦手な授業でした。でも、大学の授業らしくて、これから役に立つことをたくさん教えていただいたと感じました。

・授業中に先生にあてられて答えられなかった時は、自分の無知さを実感したし、自分の考えをうまく言葉で表現できないもどかしさを感じたこともありましたが、それによってもっと色々なことを学び、自分自身でそれについて考える必要があるということが身にしみてわかりました。

・他の人の考えや意見を聞くことができ、自分の考えと比較したり、さらに考えを深めたりするきっかけになったので良かったと思います。

・この授業で良かった点は、先生がある事項の説明をされる時、一度説明をした後、もう一度簡潔に説明してくださっていた点です。それによって、頭の中を整理しながら聞くことができ、とても分かりやすかったです。

【他の授業との関連について】

・「発達と学習」の講義内容と重なる部分もあり、双方の授業を関連づけて考えることができたと思う。

【課題（語句調べ・図書要約）について】

・語句調べの宿題は、その語句に関連したものをさらに調べたり、授業や本の理解につながったので、あってよかったです。

・毎週の課題は正直きつかったが、自分の知らない語句ばかりだったので、自分のためになったと思う。

・毎回毎回の地道な努力も、今ふりかえると、理解できるようになっているので、やってきてよかったですとすごく思えます。

【プリント等について】

・さまざまな資料が配られ、参考となる資料が多くあったので、理解する上でとても為になりました。

【その他】

・先生自身の経験や保育現場で働かれている卒業生の話をしてくださったことも、とても興味深く、勉強になりました。

・青井先生のお話はいつも分かりやすくてためになることが多いので、毎回、受講後に、がんばろうという意欲がわいてきた。

・初めて自分なりによく勉強したと感じる授業でした。